

# 明日に向かって

喜びも悲しみも分けあって、支え合い 共に生きる社会の実現に向けて

令和5年は知事選挙の年であり、6月議会開会が7月に入る為、今回は建設委員会活動の主なるもの「昨年の8月の大雪被害の復旧工事現場」また、エネルギーに乏しい青森県にあって、いま注目されている洋上風力発電、秋田港の取り組み等を報告していきたいと思います。つたない報告ではございますがご高覧頂き貴重な声を届けて下さい。



新緑の森にたたずむ、津軽藩発祥の地 光信公の館（鰯ヶ沢町）

## 「特殊詐欺に注意」

県警察本部のまとめによりますと、今年県内で認知された特殊詐欺の件数は、6月7日までに42件で去年1年間の39件をすでに上回り、又、被害総額も去年の同じ時期に比べるとおよそ、4.3倍の9900万円近くだという事であります。いずれも家族や知人に相談なく、自身の判断により現金を振り込むなどして被害に遭っており、自分は大丈夫だ、「自分が詐欺被害に遭うわけがない」と言う思いが一番危険なのだそうす。

特殊詐欺被害に遭わないために、「お金」の話の電話を受けた場合には、必ず、家族や知人に相談して下さい。と県警察では呼びかけています。

## 振り込め詐欺に注意！



### 消費者ホットライン

いやや!  
188

青森県消費者生活センター  
017-722-3343

### 警察安全相談電話

#9110 または  
017-735-9110

警察資料から

青森県議会議員

工藤 兼光

皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

〒038-2712 青森県西津軽郡鰯ヶ沢町大字長平町字甲音羽山59-2  
TEL 0173-72-1224・FAX 0173-72-1233

討 議 資 料

## 「建設委員会県内調査」

今期最初の委員会調査が始まりました。私は昨年も建設委員会でした。

今年は委員長として活動開始です。（平田町長もご挨拶に来てくれました。中村川で）



今回の調査は中村川災害復旧、国道101号追良瀬Ⅱ期バイパス道路改築、長慶平1号線道路災害復旧、秋田港洋上風力関連、平川市白沢事業間連携砂防等、主要地方道岩崎西目屋弘前線土砂崩落、十川広域河川改修、梅田橋架替等です。

## 「中村川流域治水緊急対策」住民説明会

中村川流域治水緊急対策 住民説明会  
令和5年6月9日

住民説明会に先立ち挨拶する、鰺ヶ沢町 平田衛町長



# 港湾区域内で進捗する洋上風力事業

■事業者：秋田洋上風力発電株

丸紅(株)、(株)大林組、東北自然エネルギー(株)、コスモエコパワー(株)、関西電力(株)、中部電力(株)、(株)秋田銀行、大森建設(株)、(株)沢木組、協和石油(株)、(株)加藤建設、(株)寒風、三共(株) の計13社で構成する特別目的会社(2016年4月設立)

■発電規模：138,600kW(4,200kW×33基)

秋田港 54,600kW(4,200kW×13基) 能代港 84,000kW(4,200kW×20基)

■場所 秋田港港湾区域内及び能代港港湾区域内

■工程 2020年3月より陸上工事を開始

2021年 基礎・海底ケーブル据付

2022年 風車据付

2022年12月22日 能代港商業運転を開始

2023年 1月31日 秋田港商業運転を開始



## 「秋田港洋上風力関連等調査」

大規模な洋上風力発電事業は、国内初との事、本事業はVestas社製4.2MW風車を採用していて、秋田港13基と能代港20基の合計で約140MWの発電容量があり、総事業費は約1000億円、売電期間は20年間とのこと、2022年3月に秋田県が試算した洋上風力発電導入による経済波及効果は約270億円の生産額増加、約2600人の雇用創出で発電容量は秋田市内の全世帯約13万7000軒の消費電力に相当するという事でした。



## 秋田港風車

### 「これからは自然エネルギーの時代」

安全無くして、原子力なしと言う。しかし、まさかの坂もあるものだ。

福島県の原子力発電の事故、その中心は12年過ぎた今尚、手の付けられない状態だと思う。

その周辺、また10キロ、30キロ圏内の安全性が保障されるのは半世紀か、1世紀に亘るのか、分からぬ。



『写真提供、秋田洋上風力発電株式会社』

## 能代港風車

### 「人口減少対策」

青森県の最大の課題は、人口減少対策であります。

その一つに新産業創出、働く場の確保であり、洋上風力事業はたくさんの関連産業や雇用の場が生まれるという。



海にそびえ立つ150メートルの風車(驚きです)

『写真提供、秋田洋上風力発電株式会社』

## 「緊急流域治水対策、中村川」

昨年8月3日から9月にかけての大暴雨による舞戸地区の床上浸水等甚大な被害、上空に居座る線状降水帯により川幅が少し狭くなっている鉄道橋の下部工に電柱の様な長い雑木が流れ着いて引っ掛けたり、ゴミが絡み合いせき止められダム化し、そして新中村橋の上部工によってもせき止められる形となり上流の低い場所から、溢れた川の水と内水に溜まった雨水が合流し、一気に加速した濁流により甚大な被害を受けたものと私は思っています。したがって1日も早く鉄道橋を新しく架け替え川幅を広げて欲しい、大雨がいつ来るかもわからない。

昨年の大雨、鉄道橋下部工に大量の雑木やごみ。



木村代議士や平田町長、地域住民の大きな声が届き  
鉄道橋新設の設計に入ったと言う。



県代行、長慶平1号線



工事は進む、ここは川の中、昨年の雨の季節が近づく。  
大雨が降らなければ、と心配する事業者の方達のお話  
でした。

「岩崎西目屋弘前線、砂子瀬地滑り災害」  
令和3年11月22日から12月4日にかけて発生



# 令和5年度 日本海沿岸東北自動車道建設促進 青森・秋田・山形・新潟四県議会協議会理事会

## 協議会の概要

日沿道協議会は日本海沿岸東北自動車道(北陸道・磐越道 新潟中央JCT～秋田道 河辺JCT)、秋田道(河辺JCT～東北道 小坂JCT)をつなぐ高速道の建設促進を目的とした協議会で、当県は能代南ICから日本海沿岸(深浦・鰯ヶ沢)を経由して津軽自動車道と接続できるよう整備を求めるために加入しているものです。

## 令和5年度理事会の開催

今年の理事会の開催は、6月2日東京都千代田区、都市センターホテルで開かれました。

会長には山形県議会議長が、副会長にはそれぞれの県議会議長が、常任理事には建設委員会委員長が就く事になっています。

なお、秋は例年、国土交通省等との意見交換会が実施されており、今年度は11月13日(月)の予定となっています。

会議では迅速かつ正確な情報収集に努め、関係諸団体との連携を密にしながら一体的な運動を展開することで一致しました。

## 日本海沿岸東北自動車道整備状況

凡 例	
○	インターチェンジ
▽	ジャンクション
高速自動車国道	
○—○	供用区間
○—○	事業区間(直轄高速)
○■■○	基本計画区間
高速自動車国道と並行する一般国道自動車専用道路	
○—○	供用区間
○—○	事業区間
一般国道自動車専用道路等	
○—○	供用区間
○—○	事業区間
▲▲▲	候補路線
( )書きICは仮称	
○—○	は現道区間



協議会理事会会場で、会議を前に名刺交換でごあいさつ



## 「鰺ヶ沢漁港海岸環境整備事業」

ハマナス公園から中村川河口の人道橋を渡り、日本海拠点館まで広大な敷地があり、名称・看板などは見当たりませんが「新海浜公園」と呼んでいる様であります。

この事業はハマナス公園も含め平成3年から平成17年にかけて総事業費47億300万円であります。着工から、また完成からかなりの年数が経っており、海辺塩害もあって老朽化も進んでいます。せっかく整備されたこの事業維持管理に尚一層知恵を出し合う時期に来ていると思います。





深浦港は、日本海側南西部に位置し、古来より日本海航路の寄港地、風待ち仮泊港として天然の良港を誇り、北前船といわれる帆船の出入りで大いに賑わい繁栄してきた港です。

深浦港がいつの頃から利用されたのかは定かではありませんが、日本書紀に、阿倍比羅夫が東夷征伐の際、大饗宴を催した有馬の浜が、現在の吾妻の浜ではないかと言われています。

室町時代には日本海の夏なぎを利用した沿岸航路の仮泊港として賑わいを見せ、江戸時代には津軽四浦の一つに指定されていました。

明治の半ば頃には帆船がひしめき合い、相当な賑わいをみせていましたそうです。現在も水産業の振興と日本海北部を航行する船舶の避難港として重要な役割を果たしています。

岸壁及び物揚場、船揚場の係留施設や道路などの整備が進められ、崎の町、猿神鼻岩下、吾妻の各地区に離岸堤などの保全施設を整備しました。中でも、崎の町地区では海岸環境整備事業によって海浜公園が整備され、多くの海水浴客などに親しまれています。

(青森港湾事務所、港湾空港課資料による)

